日本学物理学会2017年秋季大会 会 期:2017年9月12日(火)~15日(金) 場 所:宇都宮大学(峰キャンパス)



12aU11-3

# J-PARC E36実験のための背景事象 $K^+ \rightarrow e^+ \nu_e \gamma$ の研究

伊藤博士<sup>1,\*</sup>), 堀江圭都<sup>2)</sup>, 五十嵐洋一<sup>3)</sup>, 今里純<sup>3)</sup>, 河合秀幸<sup>1)</sup>, 清水俊<sup>2)</sup>, for the TREK-E36 Collaboration

1)千葉大学

2)大阪大学

1

3)高エネルギー加速器研究機構

### $\text{Ke}2\gamma \ (K^+ \rightarrow e^+ \nu_e \gamma)$ Radiative Decay



#### Subtraction of structure dependent $K_{I2\gamma}$





## 1事象における波形情報



波形解析



## 波形模型の改良



CsI(TI)カロリメーター・エネルギー較正

 $K_{\mu 2}(K^+ \rightarrow \mu^+ \nu_{\mu})$ : Kinetic energy 153 MeV peak for stopped muon







2017/9/12



 $K_{e2\gamma}$ 事象解析

100 run analysis



まとめ

- R<sub>K</sub>測定においてRadiative decayは大きなBG。SD事象のγ 抜け落ち事象を評価するためにBG studyは重要。
- CsI(TI)カロリメータの波形模型を改良し、立ち上がりの合い を向上した。
- 新波形模型を用いてCsI(TI)カロリメータのエネルギー較正 を行なった。ターゲットにおけるエネルギー損失を補正して CsI(TI)のエネルギー分解能を評価した。σ<sub>E</sub> = 2.6%
- *K*<sub>π2</sub>観測結果からCsI(TI)カロリメータの機能を実証。
- *K<sub>e2γ</sub>の実験データとモンテカルロシミュレーション*計算を比 較し、矛盾しない結果が得られた。
- 今後、解析統計量を増やし、Form Factorを決定しE36実験
  系におけるBGの評価を行なっていく。